



令和 4 年 9 月 12 日  
内閣府（防災担当）

## 令和 4 年防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞者決定について

標記について、別添のとおり受賞者が決定しましたのでお知らせします。

※ 防災功労者内閣総理大臣表彰は、『「防災の日」及び「防災週間」について』（昭和 57 年 5 月 11 日閣議了解）に基づき、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象として表彰するものです。

### 【本件問合せ先】

内閣府政策統括官（防災担当）付  
参事官（総括担当）付 西川、中川、鈴木  
電話：03-3593-2844（直）

## 令和4年 防災功労者 内閣総理大臣表彰 受賞者名簿

### ○ 個人

#### 〔防災体制の整備〕

東北大学名誉教授

浜口博之

(岩手県)

鳥取大学工学部特任教授

裕見吉晴

(鳥取県)

長崎大学総合生産科学域(工学系)教授

蔣宇静

(長崎県)

長岡技術科学大学技学研究院 教授

岩橋政宏

(新潟県)

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 教授

大友康裕

(東京都)

東京大学地震研究所 教授

加藤愛太郎

(東京都)

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 教授

菊本統

(神奈川県)

東京大学地震研究所 教授・所長

佐竹健治

(東京都)

国立研究開発法人海洋研究開発機構 部門長

堀宗朗

(東京都)

国立大学法人静岡大学名誉教授

土屋智

(静岡県)

#### 〔防災思想の普及〕

裾野市地域地震防災指導員会

小林建次

(静岡県)

雲仙岳災害記念館館長

杉本伸一

(長崎県)

### ○ 団体

#### 〔防災体制の整備〕

草津市国際交流協会

(滋賀県)

松江地区防災会

(和歌山県)

美波町自主防災会連合会

(徳島県)

津田新浜地区自主防災会連絡協議会

(徳島県)

岩手県立大槌高等学校復興研究会定点観測班

(岩手県)

社会福祉法人片品村社会福祉協議会

(群馬県)

南が丘地区自主防災協議会

(三重県)

西郷中町町内会連合会

(島根県)

## 〔防災思想の普及〕

八戸地域防災協会	(青森県)
桃菌学区 自主防災会	(京都府)
三重県立南伊勢高等学校南勢校舎	(三重県)
千葉学園高等学校消防クラブ	(青森県)

## 〔災害現場での顕著な防災活動〕

(令和3年来海沢地すべり災害)

来海沢区	(新潟県)
------	-------

(令和3年7月1日からの大雨)

静岡県警察本部	(静岡県)
熱海市消防団	(静岡県)
富士市水防団	(静岡県)
出雲市消防団	(島根県)
さつま町消防団	(鹿児島県)
国土交通省緊急災害対策派遣隊	(東京都)
国立研究開発法人土木研究所緊急災害対策派遣隊	(茨城県)
第1師団災害派遣部隊及び同協同部隊・同支援部隊	(東京都)

(令和3年8月の大雨)

長崎県警察本部	(長崎県)
佐賀県警察本部	(佐賀県)
風間浦村消防団	(青森県)
諏訪市消防団	(長野県)
下呂市消防団	(岐阜県)
坂祝町消防団	(岐阜県)
三次市消防団	(広島県)
久留米市消防団	(福岡県)
みやま市消防団	(福岡県)
嬉野市消防団	(佐賀県)
大町町消防団	(佐賀県)
武雄市消防団	(佐賀県)
雲仙市消防団	(長崎県)
大村市消防団	(長崎県)
川棚町消防団	(長崎県)

以上 48件(12個人、36団体)

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 氏 名	はまぐち ひろゆき 浜口 博之
住 所	宮城県仙台市泉区
職 業	東北大学名誉教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、平成10年、岩手山で火山性地震が急増し、微動や地殻変動も観測され、噴火の可能性が指摘される中、同年に設置された「岩手山の火山活動に関する検討会」の委員として適時適切な助言を行うとともに、同氏が整備した地震計・傾斜計などによる観測網は、早期の効果的な防災対策の実現と、その後の段階的な入山規制の緩和の判断に大きく貢献した。</p> <p>また、「岩手山火山防災協議会」及び「栗駒山火山防災協議会」の委員を務めるほか、「岩手県の火山活動に関する検討会」の委員として、毎年、県内活火山の活動状況の評価を頂くなど、本県の火山防災対策の推進に大きく貢献した。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 氏 名	まつみ よしはる 栢見 吉晴
住 所	鳥取県鳥取市
職 業	鳥取大学工学部特任教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、昭和55年から40年以上、自助共助を基軸とした自律型防災活動の仕組みづくり等を研究し、優れた研究成果を上げている。さらに、地域住民の防災の取り組みを指導、支援するとともに、県内各地の防災講演会等によって県民及び防災関係者の防災意識・防災知識の普及啓発を進め、鳥取県の地域防災力の向上に長年尽力している。</p> <p>また、平成25年からは鳥取県防災顧問に就任したほか、鳥取県国土強靱化推進評価会議の会長や鳥取県近未来技術地域実装協議会の会長等を歴任するなど、専門的な立場からハードとソフトの両面に係る防災行政に対して有益な提言を行い、鳥取県の防災対策に大きく貢献をしている。</p> <p>さらに、平成27年からは国土交通省が主催する斐伊川水系河川整備アドバイザー会議の座長として県域を越えた治水対策についても提言をされるなど、鳥取県を中心に、広域での防災体制の構築に多大な貢献をしている。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 名	じゃん いじん 蔣 宇 静
住 所	長崎県西彼杵郡時津町
職 業	長崎大学総合生産科学域（工学系）教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、長崎県道路防災計画委員会の委員長を歴任し、長崎県全体の道路防災事業計画の策定と運用について13年以上にわたり携わっている。特に、令和2年7月の集中豪雨によって道路が寸断し、平戸市民が孤立状況となった「平戸生月線斜面崩壊」、人的被害を生じた諫早市「轟峡法面崩壊」、令和3年8月の記録的豪雨による「雲仙市温泉街大規模土砂災害」の発生直後に現地調査を行い、被災地の捜査活動と早期復旧並びに再発防止に尽力されるなど、地域の安全安心に多大な貢献をしている。</p> <p>令和3年7月に発生した静岡県熱海市の土石流災害を踏まえ、県内19市町の790か所大規模盛土造成地の第2次スクリーニング計画策定と調査点検を、長崎県の専門検討委員会の委員長として学際的に支援している。</p> <p>また、長崎市都市部急傾斜地の維持管理システムを構築し、御船蔵町住宅地や戸町住宅地のがけ崩れなど都市部土砂災害発生地区の再発防止対策の意思決定に有効に活用されている。</p> <p>さらに、国土交通省九州地方整備局の緊急災害対策派遣ドクター（TEC-Doctor、平成23年5月～現在）として、県内延べ240か所以上の潜在的土砂災害危険個所の調査診断に参画し、幹線道路の安全確保に大きく貢献している。</p> <p>以上のとおり、地盤防災工学の専門家として幅広く活躍し、防災体制の整備における貢献は多大である。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 名 称	いわはし まさひろ 岩橋 政宏
住 所	新潟県長岡市
職 業	長岡技術科学大学技学研究院教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、長年にわたり、情報通信工学の専門家として防災・減災システムの研究開発および社会実装に貢献してきた。様々な競争的研究資金を分野横断的に活用して独創的な防災情報通信技術を開発し、近年では、民間企業と協働してA I画像診断技術を社会実装するなど、防災情報整備の功績は誠に顕著である。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 名 称	おおとも やすひろ 大友 康裕
住 所	東京都江東区
職 業	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授
功 績 の 概 要	氏は、わが国の健康危機管理（自然災害・新型コロナウイルス対応）に欠くことのできないDMATの体制創設に多大の貢献をした。

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 名 称	かとう あいたろう 加藤 愛太郎
住 所	東京都西東京市
職 業	東京大学地震研究所教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、大地震の発生メカニズムの解明と大地震の発生予測の学術研究において優れた業績を残しているほか、最新の研究成果を社会に活かすべく、地震防災行政における提言や教育活動に取り組んでいる。</p> <p>研究活動においては、ゆっくりすべりと大地震の発生に関する研究、スロー地震の発生機構や多様性についての研究、地震の誘発現象の研究、高密度地震観測に基づく震源断層への応力集中過程の研究など高い学術的成果を上げている。国際的視点から、地震の発生過程の複雑さを明らかにする重要性を訴えるなど、研究活動を主導する同氏の功績は大きい。</p> <p>地震防災行政においては、文部科学省の地震調査研究推進本部地震調査委員会委員、学術調査官、科学技術・学術審議会測地学分科会地震火山部会委員などを若手の頃から務め、幅広い知見から有用な提言を行うなど、地震調査研究の推進や地震防災行政において多大な貢献をしている。</p> <p>学会活動においては、日本地震学会理事や国際誌の副編集長をはじめ、多くの学協会の委員を歴任し、各地での講演会・セミナー等を通じて、過去の地震災害に関する知見や大地震に対する備えについて説明するなど、防災教育の普及や若手育成に従事している。</p> <p>このように様々な方面において地震研究の専門的立場から防災活動の推進に尽力し、多大な貢献をしている。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 名 称	きくもと まもる 菊本 統
住 所	神奈川県横浜市保土ヶ谷区
職 業	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、地盤工学をリードする研究者で、地盤材料の変形・破壊メカニズムの解明や力学モデルの研究開発で優れた成果を多数発信しており、先駆的な研究成果と優れた人材育成を通じて、社会インフラの防災力向上に大きく貢献している。</p> <p>また、自然災害に対する統合的なリスク指標を開発・提唱し、防災行政の合理化のために学会や自治体の委員会等で積極的に普及活動に取り組んでいる。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 名 称	さたけ けんじ 佐竹 健治
住 所	東京都文京区
職 業	東京大学地震研究所教授・同所長
功 績 の 概 要	<p>氏は、地震・津波の学術分野において優れた成果を残しているほか、最先端の研究や幅広い知見を踏まえ、防災行政へ有用な提言を行うなど、その活動は非常に幅広い。</p> <p>学術研究活動分野においては、発生繰り返し間隔の長い巨大地震や津波を地学的な変動現象として捉え、史料に基づく歴史地震学的研究手法、海岸地形や津波堆積物などの地形・地質学的研究手法を用いて、過去に発生した地震や津波について調べると同時に、将来の発生や被害の予測を行うなど、巨大地震・津波研究の第一人者として高い学術的成果を上げている。</p> <p>防災行政においては、内閣府の南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会の座長、座長代理、日本海における大規模地震に関する調査検討会の副座長を務め、被害想定算出のための津波高や震度分布のための震源モデルについての検討を主導した。また、文部科学省の地震調査委員会においては、平成9年以来、地震調査委員会委員、長期評価部会長、同部会長期確率評価手法検討分科会委員、海溝型分科会主査、津波評価部会委員などを務め、活断層や海溝型地震の長期評価に多大な貢献をした。その他、気象庁の津波予測技術に関する勉強会座長、国土地理院の地震予知連絡会委員、海上保安庁海洋情報部の津波防災情報図検討会委員などを務めている。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 名 称	ほり むねお 堀 宗朗
住 所	東京都練馬区
職 業	国立研究開発法人海洋研究開発機構部門長
功 績 の 概 要	<p>氏は、「京」や「富岳」のようなスーパーコンピュータを利用し、理学・工学・社会科学の分野の様々な地震数値解析を連成させた都市の地震シミュレーションを開発した。</p> <p>また、イノベーションに繋がる先端研究開発の経験を活かし、SIP第1期2年間と第2期に防災分野のプログラムディレクターを務め、災害情報共有システム、高性能降雨予測システム、衛星観測データ防災利用システム等、先端情報システムの研究開発を指揮し、社会実装を進めた。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 氏 名	つちや さとし 土屋 智
住 所	静岡県静岡市駿河区
職 業	国立大学法人静岡大学名誉教授
功 績 の 概 要	<p>氏は静岡県における警戒避難体制の整備、火山砂防計画の策定など、土砂災害に関する各種委員会で委員長等を歴任し、県のホームドクターとして、卓越した技術力と経験に基づき、委員会運営等を通して、県の砂防行政において、多大な功績をあげてきた。</p> <p>特に、急峻な地すべり斜面直下に東海道本線や東名高速道路など重要な交通網がひしめく由比地すべりは、対策の緊急性が高い一方、地形や地質が複雑で高度な技術を要することから学識者の意見を聴取するため委員会が設置され、氏は平成16年度以降、委員会を通して数々の助言をされ、それらは現在の対策の礎となっている。</p> <p>また、静岡県に限らず、砂防学会及び地すべり学会において要職を歴任しており、特に地すべり学会では平成26年、27年度に会長に就任し、学会の発展と科学技術の振興及び安全な地域社会の実現に向け尽力するなど、広く砂防・地すべり分野において多大な功績を上げている。</p>

功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 氏 名	こばやし けんじ 小林 建次
住 所	静岡県裾野市
職 業	裾野市地域地震防災指導員会 会計
功 績 の 概 要	<p>氏は、平成10年から裾野市地域地震防災指導員に委嘱され現在も同指導員として活躍している。裾野市地域地震防災指導員会会長を平成19～21年度の3年間にわたって務め、現在は、会計役員として後進の育成や担当地区の防災啓発に注力。地区幹事や副会長等の役職を歴任しており、担当地区（3地区）のみならず東地区（27区）の自主防災会からも信頼されている。</p> <p>平成30年9月からは市広報特派員として防災活動や防災訓練に関する記事を市広報紙や市公式SNSで発信するなど、防災思想の普及に多大な貢献をしている。</p>

功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 氏 名	すぎもと しんいち 杉本 伸一
住 所	長崎県島原市
職 業	雲仙岳災害記念館館長
功 績 の 概 要	<p>氏は、雲仙普賢岳噴火災害時の島原市職員として火山防災の実践に基づき、内閣府火山防災エキスパートとして、日本各地の自治体などにおいて、防災講演活動や避難訓練、避難訓練の企画などにも参画し、火山防災に大きく貢献するとともに、内閣府の「噴火時等の避難に係る火山防災対策懇談会」、「災害遺構の収集及び活用に関する検討委員会」などの委員として、火山防災や災害遺構の保存活用についての的確な助言を行っている。</p> <p>また、雲仙普賢岳における災害遺構の保存でも中心的な役割を果たし、その災害遺構を活用した取組は、氏が事務局長として携わり島原市で開催した二つの国際会議、火山都市国際会議、ジオパーク国際ユネスコ会議において、国際的にも大きな評価を得ている。雲仙普賢岳におけるこのような先駆的な取組は、ジオパークの普及活動の中に防災を取り込んだ活動として全国のジオパークに普及を行っているが、特に東日本大震災の被災地である三陸ジオパークの、日本ジオパーク認定に多大な貢献を行っている。</p> <p>さらに、市民や防災担当者などへの講演会等に加え、新聞テレビ等の仕事も多く、噴火災害の脅威と防災対策について、分かりやすく説明し、火山地域での備えとして火山に対する知識と危機管理意識の重要性を、積極的に啓発する活動を行っている。</p> <p>以上のおり、火山防災の専門家として幅広く活躍し、防災思想の普及における貢献度は多大である。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府・消 防 庁
ふ り が な 名 称	くさつしこくさいこうりゅうきょうかい 草津市国際交流協会
所 在 地	滋賀県草津市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>みなみ けいじろう</small> 南 啓次郎
功 績 の 概 要	<p>草津市国際交流協会は「助けられる側から助ける側へのシフトチェンジ」をスローガンに、草津市国際交流協会日本語教室に通う外国人留学生を中心に、外国人による機能別消防団員の制度を発足させた。</p> <p>当消防団員は、日本語教室などでの防災教育や地域の自治会訓練への参加など、平常時から様々な活動に積極的に取り組むとともに、災害時に避難誘導や情報伝達支援、避難所での通訳や翻訳・生活相談等を行うための体制を構築している。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	まつえちくぼうさいかい 松江地区防災会
所 在 地	和歌山県和歌山市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>かわぐち としお</small> 川口 敏夫
功 績 の 概 要	<p>松江地区防災会は、平成12年の発足以来、地区の防災力及び地区住民の防災知識の向上を図るため、毎年大規模な防災訓練を実施するなど地道な活動を継続し、安心・安全に暮らせるまちづくりに向けて、常に取り組んでいる。</p> <p>また、地区住民の自助・共助の意識の高さから、地区全体として「松江地区防災計画」を策定し、地区内の各自治会においても、より地域特性を踏まえた地区防災計画の策定に取り組んでいる。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	みなみちようじしゅぼうさいかいはんごうかい 美波町自主防災会連合会
所 在 地	徳島県海部郡美波町
代 表 者 (団体での職名)	会長 さかい かつし 酒井 勝利
功 績 の 概 要	<p>美波町自主防災会連合会は、南海トラフ巨大地震等の災害に備え、平成23年に設立して以降、毎年訓練を実施し、検証を重ねている。</p> <p>平成30年に内閣府防災功労者防災担当大臣表彰を受賞した以降も、平成29年に締結した県内初の「大規模災害発生時における相互協力に関する協定」に基づき、阿南市指定避難所において、阿南市福井町自主防災連絡会と共催して両市町合同の訓練を開催した。また、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した訓練も実施するなど、美波町の地域防災力の向上に絶大な貢献を果たした。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	つだしんはまちくじしゅぼうさいかいはんらくきょうぎかい 津田新浜地区自主防災会連絡協議会
所 在 地	徳島県徳島市
代 表 者 (団体での職名)	会長 はり よしのり 張 義則
功 績 の 概 要	<p>津田新浜地区自主防災会連絡協議会は、津波避難困難地域にあり、防災訓練及び防災研修等を積極的、計画的に実施している。地域住民も防災意識が高く、毎回多くの方が参加している。</p> <p>また、自主防災会、消防団、学校及びコミュニティセンター等の各種団体と連携し、避難場所の確保や避難経路の調査など、地域に根ざした防災活動を展開し、地域が一体となる協力体制を確立している。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	いわてけんりつおおつちこうとうがっこうふっこうけんきゅうかいていてんかんそくはん 岩手県立大槌高等学校復興研究会定点観測班
所 在 地	岩手県上閉伊郡大槌町
代 表 者 (団体での職名)	校長 つぐえだ ひとし 継枝 齊
功 績 の 概 要	<p>岩手県立大槌高等学校復興研究会定点観測班は、大槌町内の約180地点を、年3回同じ場所同じ角度から撮影し復興の変化の記録として撮り続けている。復興工事が進む中で町内のさまざまな工事に携わる各建設会社等と協力し、多くの地点が工事区域内にある中でも撮影を続けてきた。写真は、生徒が本校のホームページに掲載し、地点の変化を誰でも写真で確認することができる。また、本校の文化祭では、「定点観測写真展」を毎年開催している。県外からも要請があり、神戸市・岡山市などで開催し多くの方々から好評を得ている。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	しゃかいふくしほうじんかたしなむらしゃかいふくしきょうぎかい 社会福祉法人片品村社会福祉協議会
所 在 地	群馬県利根郡片品村
代 表 者 (団体での職名)	会長 よしの こうじ 吉野 耕治
功 績 の 概 要	<p>社会福祉法人片品村社会福祉協議会は、地域の見守り支援として福祉委員を中心に、地域住民と協働して住民チームによる見守り活動を開始。住民同士で避難行動要支援者の抽出を行い、日頃からの見守り活動と災害時の避難支援に取り組んでいる。</p> <p>克雪支援として除雪ボランティアの組織化を図り、地域内の高齢世帯等の除雪と見守り活動を行うとともに、村外ボランティア等の除雪安全講習を毎年実施している。本会は地域福祉の担い手として村内の高齢者や障害者等の支援を行い、防災体制の整備に多大な貢献をしている。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	みなみがおかちくじしゅぼうさいきょうぎかい 南が丘地区自主防災協議会
所 在 地	三重県津市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>なかむら やすちか</small> 中村 保親
功 績 の 概 要	<p>南が丘地区自主防災協議会は、南海トラフ地震等の大規模災害に備えた防災啓発、各種訓練のほか、1地区だけではなく、津波発生時に広域避難対象地域から当地区に避難してくる避難者への対応について、海岸地区・小中学校・行政が協働した住民主導の避難所運営の取組の実施を主導している。特に避難所である小中学校と地域が密接に連携し、児童・生徒の安全を確保しつつ避難所がスムーズに運営できるよう、先生方とそれぞれの役割・学校施設の使用範囲等について調整を行い、訓練を実施した。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	さいごうなかもちちょうないかいはれんごうかい 西郷中町町内会連合会
所 在 地	島根県隠岐郡隠岐の島町
代 表 者 (団体での職名)	会長 おおた こうし 大田 耕士
功 績 の 概 要	<p>西郷中町町内連合会は、高齢者宅に声掛け活動を行う「えんつくりの会」で地区内の繋がりを強固にすることをベースに、防災会の班員30数名を中心とした防災訓練等を年に2回以上、10年間継続して実施している。</p> <p>自主防災組織の立ち上げ当初は「班員の顔を知らない」「自分の所属する班を知らない」という声も聞こえたが、10年に渡る活動を通して、笑顔や挨拶、協力しながら共に活動する姿が増え、住民の防災意識を大きく向上させる結果となった。</p>

## 功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	はちのへちいきぼうさいきょうかい 八戸地域防災協会
所 在 地	青森県八戸市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>さいとう ひろし</small> 齊藤 浩
功 績 の 概 要	<p>八戸地域防災協会は、各事業所における災害防止のみならず、地域住民の防災意識の高揚を図り、災害のない安全な地域づくりを推進するため、会員相互が協力し各種事業を行い、地域社会の安全と社会公共の福祉の増進に寄与するため事業を展開している。</p> <p>災害時要援護者世帯に住宅用火災警報器を年間約100個寄贈設置し、併せてコンセントの増設、水道蛇口の漏水改修、火気使用器具の点検及び防火指導を実施し、地域社会の安全と地域の防災力向上に大きく貢献している。</p> <p>また、会員、少年・女性消防クラブ員及び消防職団員が、それぞれの立場から防火防災に関する発表をする防災意見発表会を開催し、防災思想の普及高揚を図っている。令和3年度には、隔年で開催している防災フェスタを映像集を制作する非接触型開催とし、テレビ放送を通じて広く防火を呼びかけ、民間防火組織の拡大強化、住宅火災の未然防止と被害の軽減、地域住民への防火意識の高揚を図り、地域防災体制の一層の充実強化に努めた。あわせて、幼年消防クラブを対象に防災図画コンクールを行い、幼少期からの防火思想の意識付けを行うとともに、入賞作品の図柄で防火ポスターを作成、配布して火災予防啓発などの防災活動に力を入れている。</p>

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	とうえんがっくじしゅぼうさいかい 桃菌学区自主防災会
所 在 地	京都府京都市上京区
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>なかがま きょうこ</small> 中山 京子
功 績 の 概 要	<p>桃菌学区自主防災会は、長年にわたり、「全世代対象の防災ひとづくり」を標榜しており、各世代（年代）を対象とした様々な取組を実施している。それは、幼少期から災害と向き合う（向き合わせる）ことで、災害そのものへの免疫を培い、災害と共に生きる覚悟の涵養を目的としている。</p> <p>ともすれば、災害への対応を含め、自主防災組織の活動は、体力面等に一定の余裕のある若年から中高年が担いがちで、その他の者は傍観者になりがちである。しかしながら、桃菌学区自主防災会では、全ての者を傍観者にする事なく、幼少年や高齢者が安易に抱いてしまう「私は助けられる側」という固定観念を打破するとともに、全世代を対象として災害を見据えさせ、「それぞれの世代の構成員が自分たちにできることをする」という思想の普及に注力している。</p> <p>あわせて、「微力から備力(びりよく)へ」というキャッチフレーズの下、住民一人一人の力はたとえ「微力」であったとしても、それらを結集することにより達成される自主防災会全体の「備力(びりよく)（災害へ備える力）」の醸成に努めている。</p>

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	みえけんりつみなみいせこうとうがっこうなんせいこうしゃ 三重県立南伊勢高等学校南勢校舎
所 在 地	三重県度会郡南伊勢町
代 表 者 (団体での職名)	校長 <small>かどや たかひさ</small> 角屋 貴久
功 績 の 概 要	<p>三重県立南伊勢高等学校南勢校舎は、熊野灘沿岸のリアス海岸の奥に立地しており、南海トラフ大地震が発生した場合は、甚大な被害が予想される。また、南伊勢町は、県内で最も急速に過疎化・少子高齢化が進む自治体で、高校生の若い力が地域防災にとって大きな存在となっている。</p> <p>東日本大震災を契機に、被災地でのボランティア活動、研修を行い、防災特別授業を実施するなど、災害に対する正しい知識と地域防災の現状・在り方を的確に理解し、また防災士資格を持つ生徒が、中学校で防災学習会の講師を務めるなど、地域の防災活動や県内外でのボランティア活動等を通じて、郷土を愛し、災害発生時には地域の一員として自ら課題や役割を見つけ主体的に行動できる人材の育成に取り組んでいる。</p>

功 績 概 要

団体 [ 防災思想の普及]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 名 称	ちばがくえんこうとうがっこうしょうぼう 千葉学園高等学校消防クラブ
所 在 地	青森県八戸市
代 表 者 (団体での職名)	教諭 <small>さいとう</small> 齋藤 <small>たいすけ</small> 大輔
功 績 の 概 要	<p>千葉学園高等学校消防クラブは、高校生消防クラブ員が防災について学習するための組織であり、防災パトロールや防火に関する研究発表や意見発表会の実施などの活動を行っている。地域防災活動に貢献した。</p>

## 功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	くるみさわく 来海沢区
所 在 地	新潟県糸魚川市
代 表 者 (団体での職名)	区長 <small>かみじき しげのぶ</small> 神喰 重信
功 績 の 概 要	<p>来海沢区の区長及び役員9名は、令和3年3月4日未明、市から地すべり発生の電話連絡により参集し、午前3時に西側地区の避難勧告発令を受け、地すべりに伴う地区全域停電による暗闇の中、寝静まっている地区住民を戸別に回って、避難を呼びかけるとともに、高齢者を自家用車で地区内の一次避難先へ避難誘導した。明け方には土砂が人家に到達したが、この行動により、土砂到達直前までに全員の避難が完了した。</p> <p>当該地区は過去の地すべり災害等の経験から毎年、市の防災訓練に併せて、「声を掛け合って避難する訓練」を実施しており、どの役員が誰を自家用車で迎えに行くかをあらかじめ決めていたため、よりスムーズな避難に繋がった。</p> <p>このほか、一部住民の避難生活が続く中、「来海沢区かわら版」（地すべりの調査、応急対策工事の進捗状況などの情報）を毎月2回発行し、避難者や地区内で耕作している人などの関係者へ、手渡しや郵送配布を行っている。</p> <p>また、地区内集会所には地区内居住者及び耕作者の入出表を掲示し、避難勧告が発令された場合の、逃げ遅れがないかを一目で把握できるように備え、これにより3月の発災以来、10月末までに計10回の避難（避難勧告発令及び自主避難等）があったが、一人の逃げ遅れも無く、確実に避難が行われている。</p> <p>さらに、地区内では、避難中の空き家や災害中の混乱に乗じた不審者が懸念されていたため、地区入口に防犯カメラを設置し、住民の安心と犯罪予防対策も行っている。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	警 察 庁
ふ り が な 名 称	しずおかけんけいさつほんぶ 静岡県警察本部
所 在 地	静岡県静岡市葵区
代 表 者 (団体での職名)	警察本部長      やまもと かずき 山本   和毅
功 績 の 概 要	<p>静岡県警察は、令和3年7月1日からの大雨により、熱海市伊豆山地区において大規模な土石流が発生し、土石流災害現場からの救出救助活動は困難を極めたが、迅速に部隊を投入するとともに、広域緊急援助隊等の派遣を要請し、救出救助、捜索活動等の災害警備活動を的確に実施した。</p> <p>また、被災現場周辺における警戒・防犯活動を実施するとともに、被災現場直近の公民館に相談所を開設し、被災者の支援活動を推進するなど、国民の安全確保と安心感の醸成に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	あたまししょうぼうだん 熱海市消防団
所 在 地	静岡県熱海市
代 表 者 (団体での職名)	団長 さくらい よしひさ 櫻井 佳久
功 績 の 概 要	<p>熱海市消防団は、令和3年7月3日に熱海市伊豆山地区で発生した土石流災害において、発災当日、自らの危険を顧みず消防団詰所に駆けつけ詰所設置のサイレンを鳴動させるとともに、逃げ遅れた住人の避難誘導を実施した。</p> <p>また、翌日以降は救助活動隊の活動が円滑に行えるよう後方支援活動を行うとともに、8月以降は約3か月間の長きに渡り地域住民の安心安全に寄与するため夜間パトロール等を行うなどその功績は誠に顕著である。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	ふじしすいぼうだん 富士市水防団
所 在 地	静岡県富士市
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>ながはし</small> 長橋 <small>ひろたか</small> 弘孝
功 績 の 概 要	<p>富士市水防団は、令和3年7月1日からの大雨に際し、11分団延べ298名が警戒巡視、水害対応にあたった。</p> <p>特に、富士市東部域にある、富士川水系江尾江川・万騎沢、前川が氾濫したため、同水防団は、消防団や地域の自主防災会と連携し、溢水箇所への土のう積み、冠水道路周辺での通行誘導、浸水避難困難者の避難補助等を行い、水害対応において中心的な活躍をするなど、地域の被害軽減に貢献した。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	いずもししょうぼうだん 出雲市消防団
所 在 地	島根県出雲市
代 表 者 (団体での職名)	団長 ころばら はじめ 河原 基
功 績 の 概 要	<p>出雲市消防団は、令和3年7月1日からの大雨に際し、令和3年7月7日から7月13日にかけて、延べ1,464名が出動し、積み土のう工、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、ゴムボートによる住民6名の救助を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	さつまちょうしょうぼうだん さつま町消防団
所 在 地	鹿児島県薩摩郡さつま町
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>まるお</small> 丸尾 <small>しょうご</small> 省吾
功 績 の 概 要	<p>さつま町消防団は、令和3年7月1日からの大雨に際し、延べ332名が出動し、大雨特別警報が発令される状況のもと、河川流域の住民の避難誘導に奔走した。また、河川増水により冠水した道路に取り残されて浸水した車両からの救出活動や、床上浸水した住宅から消防署と連携し、ゴムボートによる住民1名の救助を行った。平素の水防意識の高揚と相まって、人的被害の軽減に多大な貢献をしたその功績は、特に顕著であると認められる。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	こくどうつうしょうきんきゅうさいがいたいさくはけんたい 国土交通省緊急災害対策派遣隊
所 在 地	東京都千代田区
代 表 者 (団体での職名)	隊長 <small>たかす ひろゆき</small> 高須 博幸
功 績 の 概 要	<p>国土交通省緊急災害対策派遣隊は、令和3年7月1日からの大雨による災害に際し、令和3年6月30日から8月31日の約2か月にわたり、全国から延べ1,283名が出動し、中部、中国地方での地方公共団体の被災状況調査や、九州地方での排水ポンプ車による浸水排除などを実施し、被害の全容把握による被災地の復旧・復興に向けて多大なる貢献をした。</p> <p>また、大規模な土石流が発生した静岡県熱海市では、土砂災害専門家による助言や、被災箇所上流への監視カメラの設置など、警察、消防、自衛隊による救助活動に貢献した。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	こくりつけんきゅうかいほうじんどぼくけんきゅうじょきんきゅうさいがいたいさくはけんたい 国立研究開発法人 土木研究所緊急災害対策派遣隊
所 在 地	茨城県つくば市
代 表 者 (団体での職名)	上席研究員 さわだ まもる 澤田 守
功 績 の 概 要	<p>国立研究開発法人土木研究所緊急災害対策派遣隊は、令和3年7月1日からの大雨に際し、発災直後から情報収集や分析等を実施するとともに7月6日から7月15日にかけて延べ4名の専門家を派遣し、橋梁被災箇所に係る高度な技術指導を実施し、被災地の早期復旧に大きく貢献した。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	防 衛 省
ふ り が な 名 称	だいいちしだんさいがいはいけんぶたいおよびどうきょうどうぶたい・どうしえんぶたい 第1師団災害派遣部隊及び同協同部隊・同支援部隊
所 在 地	東京都練馬区
代 表 者 (団体での職名)	第1師団長 陸将 <small>こだま やすゆき</small> 兒玉 恭幸
功 績 の 概 要	<p>同災害派遣部隊等の災害派遣は、静岡県知事からの災害派遣要請を受け、令和3年7月3日から同年7月31日までの29日間にわたり、延べ22,967名をもって、各種の災害派遣活動に従事し、人命の救助と安全確保及び被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	警 察 庁
ふ り が な 名 称	ながさきけんけいさつほんぶ 長崎県警察本部
所 在 地	長崎県長崎市
代 表 者 (団体での職名)	警察本部長      なかむら   りょう 中村   亮
功 績 の 概 要	<p>長崎県警察は、令和3年8月の大雨に伴う災害に際し、長崎県での土砂崩れ等の災害発生に対して、迅速に部隊を投入し、的確に救出救助活動を実施するとともに、被災地区における防犯活動を推進するなど国民の安全確保と安心感の醸成に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	警 察 庁
ふ り が な 名 称	さがけんけいさつほんぶ 佐賀県警察本部
所 在 地	佐賀県佐賀市
代 表 者 (団体での職名)	警察本部長 <small>まつした とおる</small> 松下 徹
功 績 の 概 要	<p>佐賀県警察は、令和3年8月の大雨に伴う災害に際し、広範な地域からの多数の救助要請に対し、迅速的確に救出・救助活動等を行い、人的被害の発生を未然に防止するとともに、避難所への立ち寄り等被災者支援を実施するなど、国民の安全確保と安心感の醸成に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	かざまうらむらしょうぼうだん 風間浦村消防団
所 在 地	青森県下北郡風間浦村
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>こまみね としあき</small> 駒嶺 敏昭
功 績 の 概 要	<p>風間浦村消防団は、令和3年8月の大雨の災害に際し、延べ467名の体制で、危険地域住民の避難誘導、浸水家屋の復旧、土砂や障害物の除去、支援物資の搬入等災害復旧活動に尽くし、住民に安堵を与えた功績は誠に大きい。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	すわししょうぼうだん 諏訪市消防団
所 在 地	長野県諏訪市
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>こいけ としひこ</small> 小池 敏彦
功 績 の 概 要	<p>諏訪市消防団は、令和3年8月の大雨に際し、2日間にわたり、延べ529名が出動した。大雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり河川巡視、市内各地で内水氾濫による冠水した道路や、土砂災害による危険な状況の中、水防活動を行うとともに、住民の避難誘導や人命救助活動を行い、1人として人的被害を出さず、緊急時の水防意識の高揚と相まって、被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁・国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	げろししょうぼうだん 下呂市消防団
所 在 地	岐阜県下呂市
代 表 者 (団体での職名)	団長 つちや たけひろ 土屋 竹浩
功 績 の 概 要	<p>下呂市消防団は、令和3年8月の大雨に際し、5日間にわたり、延べ1,280名が出動し、豪雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり河川巡視を行い、河川等の氾濫を防ぐために土のう作り、土のう積み、またポンプによる排水活動により浸水等による被害を未然に防いだ。また、この他、住民の避難誘導を行い、1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	さかほぎちようしょうぼうだん 坂祝町消防団
所 在 地	岐阜県加茂郡坂祝町
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>みうら かずのり</small> 三浦 和典
功 績 の 概 要	<p>坂祝町消防団は、令和3年8月の大雨に際し、消防団員延べ138人名が、河川等の警戒巡視により冠水箇所の交通誘導を行った。木曾川が規定水位を超えたことを確認したため、勝山陸閘を閉鎖した。また、内水の排水活動を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	みよししょうぼうだん 三次市消防団
所 在 地	広島県三次市
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>にしだ</small> 西田 <small>まさひろ</small> 正博
功 績 の 概 要	<p>三次市消防団は、令和3年8月の大雨に際し、延べ1,671人の団員が出動した。</p> <p>8月12日から15日にかけて、降り続く雨の中、住民の避難誘導や冠水箇所への積土嚢、排水作業及び土砂崩れ箇所のシート張り工法、避難の呼びかけ等を行い被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁・国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	くるめししょうぼうだん 久留米市消防団
所 在 地	福岡県久留米市
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>こが せいいち</small> 古賀 誠一
功 績 の 概 要	<p>久留米市消防団は、令和3年8月の大雨に際し、8月12日から4日間にわたり延べ1,650名の体制で、避難所開設に伴う広報活動を速やかに実施するとともに、水害発生箇所において土のう積みにより被害を軽減させた。</p> <p>さらには、浸水箇所等において多くの住民が孤立する等の事案が発生したため、ボートによる救出活動及び避難所への搬送を実施した。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	みやまししょうぼうだん みやま市消防団
所 在 地	福岡県みやま市
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>さん</small> こ <small>だ</small> とも <small>ひろ</small> 三小田 智裕
功 績 の 概 要	<p>みやま市消防団は、令和3年8月の大雨に際し、当市への被害拡大の中、8月12日から18日までの7日間、延べ1,257名が出動し、昼夜にわたり水防工法や住民の避難誘導、孤立住民の救出活動等を行い、浸水被害、人的被害の軽減に多大に貢献した。</p> <p>また、降雨の合間（8月15日）に、延べ2,100袋以上の土のう作成を行い、その後の災害対応にも尽力している。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	うれしのししょうぼうだん 嬉野市消防団
所 在 地	佐賀県嬉野市
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>みつたけ</small> 光武 <small>けんじろう</small> 賢次郎
功 績 の 概 要	<p>嬉野市消防団は、令和3年8月の大雨に際し、5日間にわたり、延べ645名が出動し、昼夜にわたり住民の避難広報及び誘導、河川巡視等を行った。また浸水地域において、ゴムボートによる住民19名の救助及び搬送を行い、1人として人的被害を出すことなく、平素からの水防意識の高揚と訓練の成果により、被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁・国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	おおまちちょうしょうぼうだん 大町町消防団
所 在 地	佐賀県杵島郡大町町
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>やました けんしろう</small> 山下 賢司郎
功 績 の 概 要	<p>大町町消防団は、令和3年8月の大雨に際し、12日間におわり、延べ200名が出動し、町南部を中心とした大規模な浸水害に加えて町内3ヶ所では地割れや崩落の兆候などが発生し、一昨年につき災害に見舞われる状況の中、昼夜にわたり町内（河川）巡視を行い、一昨年前の経験から各部に配置した救命ボートによる救助活動を行った。町民の避難誘導等の水防活動を行い、1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、早期の救助活動と被害の軽減に貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁・国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	たけおししょうぼうだん 武雄市消防団
所 在 地	佐賀県武雄市
代 表 者 (団体での職名)	団長 ひわたり ひろふみ 樋渡 弘文
功 績 の 概 要	<p>武雄市消防団は、令和3年8月からの大雨の際、6日間にわたり、延べ1,641名が出動し、豪雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり舟艇等による救助活動、安否確認活動、食料の配布活動・住民の避難誘導を行い、水害等による被害を最小限に防いだ。</p> <p>この他、河川警戒巡視・道路パトロールによる通行止め対応（迂回指示）・土砂災害現場での応急対応（シート・土のう積み）等の水防活動を行い、平素の水防意識の高揚と相まって、被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	うんぜんししょうぼうだん 雲仙市消防団
所 在 地	長崎県雲仙市
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>かわかみ きよふみ</small> 川上 清記
功 績 の 概 要	<p>雲仙市消防団は、8月13日3時54分頃雲仙市小浜町雲仙地区で発生した土石流により住家が流され3名が巻き込まれた土砂災害に際し、順次指令により、同日5時から8月23日までの11日間で団長以下雲仙市消防団全支団から延べ808名の消防団員が出動し警察、消防、自衛隊の後方部隊として捜索活動を行った。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	おおむらししゅぼうだん 大村市消防団
所 在 地	長崎県大村市
代 表 者 (団体での職名)	団長 やまうら ひるゆき 山浦 弘之
功 績 の 概 要	大村市消防団は、令和3年8月の大雨に際し、延べ452名の体制で、連続53時間の長時間にわたり警戒巡視や小規模災害の対応を行い、減災に尽力した。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	かわたなちょうしょうぼうだん 川棚町消防団
所 在 地	長崎県東彼杵郡川棚町
代 表 者 (団体での職名)	団長 いしずえ たかよし 石居 敬義
功 績 の 概 要	川棚町消防団は、令和3年8月の大雨に際し、延べ236人の体制で、管轄区域内の土砂災害及び浸水被害の警戒巡視、災害現場確認、土のう積み、土砂・倒木の撤去等の活動を行った。